

初めから順序正しく

ルカによる福音 1:1-4、4:14-21

わたしたちの間で実現した事柄について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々がわたしたちに伝えたとおりに、物語を書き連ねようと、多くの人が既に手を着けています。そこで、敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていただきたいのであります。

（さて、）イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた。

イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。

「主の霊がわたしの上におられる。

貧しい人に福音を告げ知らせるために、

主がわたしに油を注がれたからである。

主がわたしを遣わされたのは、

捕らわれている人に解放を、

目の見えない人に視力の回復を告げ、

圧迫されている人を自由にし、

主の恵みの年を告げるためである。」

イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。

説教

わたしたちの間で実現した事柄について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々がわたしたちに伝えたとおりに、物語を書き連ねようと、多くの人々が既に手を着けています。ルカ 1:1-2

「実現した事柄」とはイエス・キリストの一連の出来事のことです。この出来事を人々の伝承どおりに伝えるために「多くの人々が既に手を着けています」つまりほかの福音書 = イエス物語は既にある、それでも新たに福音書を書いたのには理由があるのだとルカはしています。そして「敬愛するテオフィロさま」が登場します。テオフィロさまにほんとうのことをわかってもらいたくて私は書いたとルカはいいいます。テオフィロ閣下はとうとつな感じですがギリシアの歴史書の冒頭はこのように書くのが当時はあたりまえだったようです。謹呈先が書いてないと格好がつかないことをルカは知っていたのでこう書いたのでしょう。じつは使徒行伝の冒頭も同じテオフィロ閣下謹呈の辞から始まります。

テオフィロさま、わたしは先に第一巻を著して、イエスが行い、また教え始めてから、お選びになった使徒たちに聖霊を通して指図を与え、天に上げられた日までのすべてのことについて書き記しました。使徒 1:1-2

日本昔話なら「昔々ある処に…」で始まるところが、ルカの場合は「テオフィロ閣下」で始まったという理解でいいとおもいます。また意地の悪いみかたをすれば、マタイ・マルコなどの福音書はギリシア語で書いてあるけれどへたくそな文章でイエス物語として体裁が悪いからオレが書く、というルカのいきごみも感じます。

さて、きょうの福音箇所は冒頭から 4 章に書いてあるエピソードへと続きます。

イエスはガリラヤで宣教活動をはじめ病気直しなどをおこなってかなりの評判を得ていました。そしていよいよ故郷ナザレにやってきて会堂（いまでいえば教会）で聖書朗読と説教をします。イエスの聖書朗読箇所はイザヤ書の 61 章 1-2 です。わたしたちの持っている旧約聖書をみとみると違うことば

づかいになっています。どうしてでしょう。

70人訳聖書ではピッタリ、一言一句おなじです。

70人訳聖書とは紀元前2-1世紀にかけてエジプト王様の命令でユダヤ人長老70人によってヘブル語からギリシア語に翻訳された旧約聖書です。当時の世界標準語はギリシア語で学者でもヘブル語を読める人は多くはいなかったため王様はギリシア語訳聖書の制作を命じたようです。非ユダヤ人のルカもヘブル語が苦手で、ギリシア語70人訳聖書を手元において福音書を引用したのでしょう。

福音とは関係ないことをごちゃごちゃ書いたのは福音書はユダヤ人のためではなく異邦人（ユダヤ人から見て）のために書かれた本だといいたかったのです。テオフィロ閣下への謹呈という体裁でルカ福音書は書き始めていますが、わたしたち非ユダヤ人向けに福音は語られたということを強調したかったのだと思います。歴史的にも福音はユダヤには広まらずユダヤ地方以外で広がりました。ところで、もっとつっこめばユダヤ人の会堂にわざわざギリシア語70人訳聖書があるのもヘンです。ルカの福音でのイエス物語はおかしいところが多いとわたしは感じます。ハッキリいってしまえばルカはお話をつくっている、ということです。きょうの聖書箇所はマタイ13:53以下、マルコ6:1以下の平行箇所です。マタイ・マルコではただ教えたと書いてあるだけですが、ルカだけが聖書箇所を明らかにしています。どうしてボロがでるのを承知でルカはこう書いたのでしょうか。たぶん作者の意図があるからでしょう。ルカ福音書の伏線として憶えておくことにしましょう。

ルカが伝えてくれたおかげで、聖書を朗読してその意味を読み解くというスタイルはイエスもやっていたと知ることができます。このスタイルがむかしから今でも続いていることに驚き、そして感謝しましょう。
